

関西演芸協会とは

関西演芸協会は設立65周年を迎えた所属芸人約260名の団体です。所属芸人の落語・漫才・諸芸を披露する寄席を開催することで上方演芸の伝統を後世に伝えていく活動をしています。

寄席の楽しみ

寄席とは、落語・講談・漫才・浪曲・太神楽など、おもしろいお話を聞かせてくれたり、あっと驚く難しい技などを見せてくれるところです。大阪や東京にはそんな演芸を一日中、何十人もの方が披露する寄席小屋という場所があります。関西演芸協会のメンバーも、普段は関西のそういった寄席を中心に様々な場所で活躍しています。寄席ではいろんな演芸を楽しめますが、やはり最も代表的なものが落語です。

落語には大きく分けて、東京を起点とする「江戸落語」と大阪を起点とする「上方落語」があります。言葉も《江戸弁》と《大阪弁》に分かれ、それぞれがその発祥から生まれたと思われる特徴を持っています。関西演芸協会の落語家は上方の落語家です。もともと上方落語の発祥は大道芸であったと言われています。縁日などで、屋外で人を集めて語り聞かせながら物を売る商人たちと同じく、道を通る人々の注意を引かなければなりません。当然の事ながら上方落語は派手で陽気になっていきます。そのなごりが現在も「見台」(小机)と「小拍子」として残り、話の節目で小拍子を見台に叩きつけて音を出し、注意を引き、話題の転換や場所の移動を表現するのに用いられています。また、動きが派手で着物の裾が乱れるところから「膝隠し」を立てて膝を隠すという習慣も今もなお残っています。

『百聞は一見に如かず』。今回はそんな落語だけでなく、漫才・太神楽に児童・生徒による参加コーナーを含めた寄席を皆様にご覧頂きます。

お楽しみに!



知ってますか? ~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることにしました。日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

令和4年度

文化芸術による子供育成総合事業

一巡回公演事業一

関西演芸協会

〈演芸公演〉



「文化芸術による子供育成推進事業 一巡回公演事業一」

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



文 化 庁
ぶんかちょう

よ せ かん しょう きょう しつ たのしい 寄席鑑賞教室

らくご ぶたい
落語の舞台はとてもシンプルです。座布団の上の70cm
しほう くのうかん せかい すべ
四方の空間が世界の全てです。それでもえんじや ひょうげんりよく
と観客の想像力が重なれば、それは無限の空間へと
ひろがって行くのです。さらに江戸落語と上方落語、
おな わら
同じ笑いでありながら伝承や発展の違いで、異なる
おもしる はってん
面白さへと発展していった二つの笑いを聞き比べて

ください。笑いの向こうに文化が見えます。
かんきやく くのう ぶん い き よ
観客の空気や雰囲気を読み、その場で創りあげてい
いっかいせい げいじゆつ らくご だいほん
く一回性の芸術、落語。台本はあっても同じ芸は二度
み でき
と見ることは出来ません。

その日、その時、その場集った、皆さんのためだけに
つくられたよせ げい しんずい たの
寄席芸の神髄をお楽しみください。



よ せ ばやし 寄席囃子

えど じだい かみかた はつしょう い われ よ せ もち
江戸時代に上方で発祥したと言われ、寄席で用いられる
はやし ぜんばん さ らくご か どうじよう な でばやし
囃子全般を指します。落語家の登場に鳴らす「出囃子」や、
はなし なか こうか おん つか
囃子の中の効果音やBGMとして使われる「はめもの」などがあ
ります。主に三味線・笛・太鼓・銅鑼などで構成されています。

らくご はめもの落語

らくご らくご えん らくご か かつら くち あ
はめもの落語とは落語を演じる落語家の語り口に合わせて、
はやしかた こうか おん えんそう じょうけいひょうしや かみかたとくゆう らくご
囃子方が効果音を演奏し、情景描写する上方特有の落語で
す。賑やかで華やかな臨場感溢れる落語をお楽しみください。

いろ もの 色物

よ せ
寄席において、落語と講談以外の演目を指します。むかし寄席
のめぐりで落語・講談の演目を黒文字で、それ以外の演目は
しゅうし いろも じ つか か
朱色などの色文字を使って書かれていたことに由来します

へいあんじだい しんねん いわ ことほぎ げいのう
漫才(まんざい): 平安時代に新年を祝う言祝の芸能であった
せんずまんざい わら しゆ げいのう へんか
「千秋万歳」が笑いを主とする芸能に変化していきました。

えどじだい まんざい こうぎようか い
江戸時代には「万才」として興行化されたと言われています。

もと しんぶつ ほうのう ま
太神楽(だいかぐら): 元は、神仏への奉納として舞われてきた
だいかぐら だいでうげい えんげいせい たか でんしやう
太神楽が大道芸として、より演芸性を高め伝承されてきました。
はな ことうぐ ことほ ほん ころい でんとうげいのう
華やかな小道具を使って言祝ぐ、日本古来の伝統芸能です。

しゅつ 出	えん 演	えん 演 目 ・ 内 容
かみがたらくご 上方落語(はめもの) かつら 桂 福 團 治 他	よ せ はやし きょうしつ 「寄席・お囃子教室」 よ せ らくご しょうかい しゃみせん たいこ ふえしやう ひょうしぎ 寄席・落語の紹介や、三味線・太鼓・笛・鉦・ドラ・拍子木など、エピソードを まじ よ せ じゆんぱんしたが えんそう かいせつ 交え、寄席の順番に従って演奏、解説をいたします。	
かみがたらくご 上方落語・解説 かつら 桂 福 丸 他	まんざい いろもの 「漫才」(色物) かみがたえんげい とくちやう い 上方演芸の特徴とも言うべきおしゃべり漫才をお楽しみください。	
いろ もの 色物 漫才(まんざい) シンデレラエクスプレス 他	かみがたらくご 「上方落語」 ももたろう たいらぼやし どうぶつえん とき などなど かみがたらくご にゆうもんへん い 「桃太郎」「平林」「動物園」「時うどん」等々…。上方落語の入門編とも言うべき らくご しょうかくせい ちゆうかくせい あ はなし 落語を、小学生・中学生に合わせてお囃いたします。	
太神楽(だいかぐら) ラ ッ キ ー 舞 他	おおぎり 「大喜利 アイウエオ作文発表」(児童・生徒参加コーナー) ワークショップでまな かんが さくぶん じどう せいと はっぴやう 学び、考えた、アイウエオ作文の児童・生徒の発表コーナーです。	
お囃子 お囃子 三味線(しゃみせん) おか 野 鏡 他	なかい 仲入り ~休憩~ きゆうけい	
太鼓・銅鑼(たいこ・どら) かつら 桂 小 梅 他	きやう まんざいし 「あなたも今日から漫才師」 ワークショップでまな かんが まんざい じどう せいと はっぴやう 学び、考えた、漫才の児童・生徒の発表コーナーです。	
	だいかぐら いろもの 「太神楽」(色物) だいかぐら にほん でんとうげいのう ふだん め こと かわいい わざ 太神楽は日本の伝統芸能です。普段あまり目にする事のない華麗な技の かずかず らん 数々をご覧ください。	
	らくご まんじゅうこわ 「はめもの落語(饅頭怖い)」 ひと きら もの にかて もの おとこ じぶん まんじゅう こわ どんな人にも嫌いな物・苦手な物があります。ある男が自分は『饅頭が怖 なま かなま はな き い』と仲間たちに話し、それを聞いた仲間たちはちょっとしたいたずらを おも おも 思いつきます。いたずらされた男がどんな反応をするか、注目して下さい。	

